フェアトレード　プログラム

「 2019年度を振り返って」　担当スタッフ　竹内彩帆

2019年度はフェアトレード事業部の売り上げが大きく伸びた一年になりました。その事実をうれしく感じる一方、いまだ採算が取れていない私たちのフェアトレード事業について「赤字続きのこの事業、今後も続けていくべきなのだろうか？」と立ち止まり考えることがよくあります。しかしながら、継続してご注文くださるお取引先の店舗さま・企業さま、私たちの商品をいつも愛用してくださるお客さま、検品やバザーなどの活動に参加してくださるボランティアさんをはじめとした、アクセスのフェアトレード事業に関わってくださるたくさんの方と日々語らいやりとりを重ね、フィリピンから届く商品を見て触れるたびに、「このカードやココナッツ雑貨、やっぱりなくせないよな」と思い直させられます。そしてそうであるからこそ、「どうしたら継続的にこの事業を続けられるか？」という課題にどのように取り組むのかが問われ、なかなか難しく苦しいところでもあります。新型コロナウィルスの拡大で、フィリピンも日本も大きく影響を受けています。厳しい状況ではありますが、私たちの商品やアクセスが持つ力や魅力がこの困難を乗り切る鍵になることを信じて、2020年度もまい進したいと思います。

日本での活動

「同じ想いを持った人たちが出会い、ともに活動する中で地球市民として成長する」という場を提供しようと、様々な形でボランティアやインターンの皆さんとともに活動しました。

ふたば（元GET×元FIT合併チーム）

3人のボランティアスタッフが、フェアトレードコーヒーを楽しみながら貧困や平和について気軽に語り合う「ナガラ・シェア」を２回、開催しました。

フェアトレード事業部

フィリピンから届いた商品を検品したり、桃山キリスト教会で開催された「オリーブまつり」で販売＆ワークショップを行いました。

東京支部

関東在住のアクセス関係者が協力して、グローバルフェスタ(9月）、よこはま国際フェスタ（10月）などでフェアトレード商品を販売しました。

Summer Project　2019

夏休み期間限定で集まった学生・社会人ボランティアスタッフが、４日間のイベントに出店して、フェアトレード商品の販売とアクセスの広報に取り組みました。

スタディツアー組織委員会2019夏

夏のスタディツアー２本の準備、実施、ふりかえりを６人のツアーリーダーが担当してくれました。

【30周年記念プロジェクト関係】

★日本スタディツアー準備委員会

２人のフィリピン人スタッフを次世代リーダーとして育成するための日本スタディツアーを準備するため、８人のボランティアが活動しました。

★ファンドレイジング委員会

同スタディツアーに必要な資金を集めるため、7人のボランティアスタッフがクラウドファンディングを実施しました。

★日本スタディツアー受け入れインターンシップ

来日した２人のフィリピン人スタッフの受け入れ、案内、通訳等を４人のインターンが担当しました。

【写真】生きる力を伸ばす補習授業にて。奨学生たちは子どもの権利について学んだのち、自分の経験したエピソードを絵にし、みんなの前で発表しました。（農漁村ペレーズ地区）

事業別レポート 2019-2020

access
認定NPO法人アクセス
access-jp.org/

子ども教育プログラム

経済的に苦しい家庭の子どもたちが小学校を卒業できるように、また子どもの権利が侵害されることなく安心してのびのびと成長できるように支援する、教育里親制度です。1997年に開始し、これまでに本プログラムの支援で363人が小学校を卒業しています。

子どもを支える3つの柱

子ども教育サポーターの方からの年15,000円のご支援で、フィリピンの子ども一人が一年間、安心して学校に通うことができます。2019年度は、244人の子どもたちを支援することができました。プログラムは、以下のような３つの活動で構成されています。

1. 就学サポート

通学に必要な制服、カバン、靴、傘、筆記用具、学校に支払う諸費用などを支援します。

2. 子どもの権利を守る

子どもの権利意識を向上させるためのセミナーを行うとともに、保護者が協力して子どもの権利保護のために行動できるよう働きかけます。

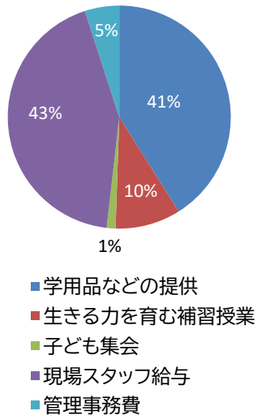
3. 生きる力を育む

子どもたちを対象にした土曜日･夏休みの補習授業を通じ、子どもたちの生きる力(ライフ･スキル)の向上を図ります。

【2019年度の支援実績】

★農漁村ペレーズ地区
200人(うち36人が卒業)

★都市スラム　トンド地区
44人(うち6人が卒業)



本プログラムは2019年度、子ども教育サポーターの皆さまからのサポーター費および２つの助成金（日蓮宗あんのん基金／連合 愛の基金）によって実施しました。本ページ右下のグラフは、ペレーズ地区での子ども教育プログラムの資金使途の内訳です。

ペレーズ地区で実施した子ども集会の様子

農漁村ペレーズ地区　／　奨学生数 200人

【子どもの生きる力を育む活動】

夏休みの補習授業	12回
夏の成果発表会	1回（子ども148人／保護者145人参加）
土曜日の補習授業	16回（平均参加率80%）
子ども集会	1回（28人参加）

【子どもの権利保護のための保護者活動】

集落ミーティング	12回（14集落）
保護者総会	２回
保護者役員会	3回
保護者リーダー研修	1回（50人参加）

ペレーズ地区の担当スタッフの声

- 補習授業では、「子どもの権利に関連するエピソードを絵に描く」という活動を行いました。この活動を通じて、子どもたちが自分の経験やその時の気持ちを振り返り、絵や言葉で表現する力を育むことがねらいでした。子どもたちが描いた絵とそれにまつわるストーリーを絵本にして配布する計画でしたが、新型コロナの影響で年度内に完成させられなかったのが残念です。
- 2019年度は、多くの集落で補習授業の会場確保に苦労しました。地域の人たちや行政に相談して、会場を提供してくれる方を探しています。
- 集落ごとに組織している保護者会の活動が活発化しています。ある集落では、保護者が協力してグループ貯金をし、子どもたちにビタミン剤を配布。補習授業のための簡素な小屋を保護者有志で建設した集落もありました。

ペレーズ地区のスタッフたち。前列左からライカ、サンドラ。後列左からリザ、ジェン。

都市スラム　トンド地区／奨学生数 44人

【子どもの生きる力を育む活動】
補習授業　　３６回

【子どもの権利保護のための保護者活動】
保護者ミーティング　　12回

【給食】　週３回

＊株式会社ドロキア・オラシイタ様からのご支援で、給食活動を行いました。保護者が当番制で調理し、子どもたちに栄養のある昼食を届けることができました。

【健康診断】 1回／50人

＊アクセス正会員で医師の喜多野先生がトンド地区を訪問し、無料診療を実施しました。

トンド地区の担当スタッフの声

- 左の写真は、補習授業の中で、自分の手形の指部分に「大切な人の名前」を書き、みんなの前で発表するというワークをした時のものです。自分の気持ちを言葉で伝える力を伸ばす練習として実施しました。
- 後期の補習授業では、UNICEFや内外のNGOが作成した動画を見た後に感想を話し合うなど、ワークショップ形式で子どもの権利について学びました。
- 農村に比べて共働き家庭が多いこともあり、保護者会の参加率が低いことが課題です。保護者向け子どもの権利セミナーの出席率も低いことが多く、改善策を思案しています。

10年後に実現していたい私たちの夢、「子どもセンター」の設立と運営

- ✓ 厳しいルールで縛ることなく、子どもの主体性を尊重する、子どもの居場所
- ✓ 運営は、地域住民×ＮＧＯ×行政の協働で
- ✓ 子どもたち自身が企画した多様な行事を開催。学校では体験できない「生きる力」を伸ばす学びの場。

コラムページで、より詳しい報告記事をご覧いただけます！

- ✓ コロナ禍での、生きる力を伸ばす補習授業
- ✓ 支援に「条件」をつけるのはどうして？
- ✓ 「子どもたちの力になりたいけど…」現地スタッフの声　など

コラム

YouTube サイト上で、「アクセス事務局」で検索！
子ども教育プログラム関連の動画などを公開しています。

2020年度の活動計画および、コロナ禍における活動の中止・延期・特別対応の方針については、活動報告書2019-2020のP13をご覧ください。

子　ど　も　教　育　プ　ロ　グ　ラ　ム

奨学生を紹介！

イアンくん（８歳）
将来の夢：警察官

イアンはアクセスの補習授業に休まず出席している奨学生です。おとなしく少し恥ずかしがりやなので、最初の頃は質問に答えたり話し合いに合参加することに苦労していました。しかし、だんだんと仲間の生徒と気楽に付き合えるようになりました。ワークショップなどにも積極的に参加できるようになっており、今では自ら進んで質問に答えています。

（担当スタッフ：リザ）

奨学生を紹介！

ジョアンナちゃん（11歳）
将来の夢：学校の先生

ジョアンナちゃん11歳の夢は学校の先生になること。両親は生活費を稼ぐために遠い町で暮らしており、祖母と兄姉とともに暮らしています。
両親と離れて暮らす生活は寂しいですが、それでも一生懸命に勉強を続けているのは、「自分が学校の先生になれたら、両親が遠い町まで働きにいかなくてもよくなるはず」と考えているからです。

（担当スタッフ：ライカ）

フェアトレード　プログラム

フィリピンで
生産者11人が
- カード　4,144枚
- ココナッツ雑貨 1,804点

を日本に納品

日本で
10人以上のボランティアと職員で商品を検品

2019年度の実績

★日本で売れた枚数・点数
カード4588枚、ココ1064点

★日本での売り上げの伸び
前年度の1.33倍

2018年度1,402,943円
→2019年度1,867,745円

生産者の声

カード生産者
マリッサさん

生産者になってもう4年になります。子どもが3人学校に通っていて、交通費や学用品など支出がかなり増えました。カード生産からの収入がなければ、とてもやっていけなかったと思います。以前は家事育児はすべて自分でやっていましたが、今は夫も家事育児を手伝ってくれます。夫の漁に使う船を造ることもできました。自分で稼げるようになってから、家庭の大事な決断の時に、自分で決められる場面が増えています。

生産者になる前は、私は恥ずかしがりで、人前で話すのは苦手でした。でも、生産者としていろんな人と出会い、研修やセミナーを受けたりする中で、だんだん自分に自信がもてるようになってきました。人前で話すのも、今はそんなに苦ではありません。

購入者の声

“外出自粛の影響で自宅にこもっていると気が滅入る事もありますが、作業開始の時にこのヘアゴムを使うと、私も頑張ろう！という気持ちになれます。色んな形があり、ココナッツの柄が違うので、毎日どれにしようか選んで楽しんでいます。”

“カードのデザインがかわいいと思いました。コロナの影響で病院全体が面会謝絶なので、入院中の母に差し入れとして使いたいと思います。”

“アクセススタッフさんたちを通じて、生産者さんとつながれているような気持ちになります。手作りで思いが込められたものを買うことができるのは、私の買い物の楽しみの1つでもあります。これからも、素敵な作品に出会えることを楽しみにしています！”